

# ご存じですか！文化財

9

## 「刀剣

多門磨正毘

市指定有形文化財

昭和59年5月9日指定



問合せ  
生涯学習課  
(☎内線 352)



所在地 志多見187

今回ご紹介する文化財は、刀剣です。

刀銘は多門磨正毘。「寛政七年迎春」(1795年)と銘打ってあります。種類は脇差しで、造り込みは鑄造り庵棟、刀の長さは59cm、釘穴は一つです。昭和59年に市の有形文化財に指定されました。

刀工は金子平太郎、宝暦13(1763)年、現在の加須市志多見に生まれ文化12(1815)年に52歳で病死しました。

金子家は、羽生市桑崎の出身で正徳4(1714)年に没した初代をはじめ、代々農鍛冶を営んできました。平太郎は、家業

に甘んじることなく、鍛冶の仕事としては最も難しいとされる日本刀の制作を志しました。

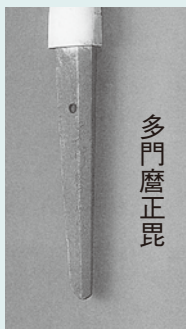
師として仰いだのは、八王子横山鍛冶の藤原廣国や当時一流の誉れ高い刀工、水心子正秀をはじめ、数度師をかえ、各流派の特徴を習得しました。

脇差しを領主松平兵庫頭に献上したところ、称賛を預かり、感謝状と小判二両を拝領しました。

平太郎の名声を聞いた忍藩主阿部侯にお抱え鍛冶として懇願されましたが、体制に依存することを嫌って丁重に断り続け、刀造りに精進したと伝えられています。



多門磨正毘



紹介者 金子 昇平さん(志多見)